

調査検討4件受注

ASEANスマートシティー

オリコンサル
グローバル
オランダ

オリエンタルコンサルタンツグローバルは、日本とASEAN(東南アジア諸国連合)の相互協力によるスマートシティー支援策「Smart JAMP」の枠組みに基づく調査検討業務4件を国土交通省から受注したことを明らかにした。

インドネシアのジャカルタ、タイのバンサーエリア、フィリピンのセブ、カンボジアのプノンペンで、それぞれ

スマートシティー実現に向けた案件形成調査や実証事業などに取り組む。

受注業務のうち、インドネシアではジャカルタ首都特別州の地域公共サービス(ジャカルタスマートシティー)が構築するマルチモーダル交通プラットフォームに関して、実現可能性の高いビジネスモデルを検討する。同社の単独受注となる。

タイ・バンコクでは、バン

スー中央駅周辺整備におけるスマートシティー構想を実現するため、事業推進体制や実施機関の実行計画などを検討する。同社とURリンケージとのJV受注となる。

フィリピンではセブ市を対象に、AI(人工知能)を活用した映像分析技術でカメラ映像などのデータを分析し、市内の交通状況把握への有効性を検証。分析情報を活用した交通課題の解決方法も検討する。同社と交通計画とのJVで受注した。

カンボジアではプノンペン都の公共バスの利便性向上と利用促進に寄与するものとして、「スマートバスシェルター」の実装に関する実証実験を計画する。パシフィックコンサルタンツと国際開発センター、同社の3社によるJV受注となる。